

## 会社のビジョンから導き出した従業員一人ひとりの目標と課題



支援テーマ



長時間労働改善



モチベーションの向上

有限会社 倉敷システムデザイン

業 種：製造業  
住 所：倉敷市中畝  
従業員数：4名（男性4名 女性0名）

### 会社のビジョンを明確にし、従業員一人ひとりの役割を明文化する

有限会社倉敷システムデザインは多様な機械装置の設計から製造までを行う開発型の金属加工企業です。多品種小ロット生産に対応しながら、絶えず新しいことに挑戦しており、これまでに開発した機器は「医療関係の分析機器」や、「高所照明器具の電球管自動交換システム」など多岐にわたります。

近年ではセラミックセンサーなどの製造に使用されるプラズマノズルや粉体供給器、特許商品の車向け業務用洗車ブラシの製造を行っています。

平成31年、新設した工場では4人の従業員が働いています。倉敷システムデザインは、市場に無い初めて製造する商品を製品化するのが得意ですが、その反面労働時間が長くなりがちで、1ヶ月の残業時間が100時間を越えることもありました。社長は長時間労働を改善し、従業員の健康を維持するために専門家の支援を要請しました。

専門家は生産性を高めて長時間労働を改善するためには、会社のビジョンを明確にするとともに、従業員一人ひとりに求められる役割と能力を明文化する必要があると考えました。

社長は5年後に倉敷システムデザインをどんな会社にしたいか、そのためにどのような戦略と課題があるかを明確にするために「中期経営計画」の策定に着手しました。

専門家のリードによって、過去の売上や利益の推移を確認するとともに、商品別の収益がどのように推移しているかを改めて分析しました。環境分析から戦略目標を引き出す



SWOT分析を用いて社内外の経営環境と自社の強みと弱みを整理し、倉敷システムデザインの強みが、高機能の機械設備とそれを使いこなす高い技術力を持った従業員であることを明確にしました。

### 自社の強みを認識し 経営環境の変化を乗り越える

経営を取り巻く外部の環境の動向を踏まえ、倉敷システムデザインの強みが生かせる分野を確認するとともに、選択した分野に「ヒト・モノ・カネ」といった経営資源を集中的に投入していくという、今後の戦略が明確になりました。

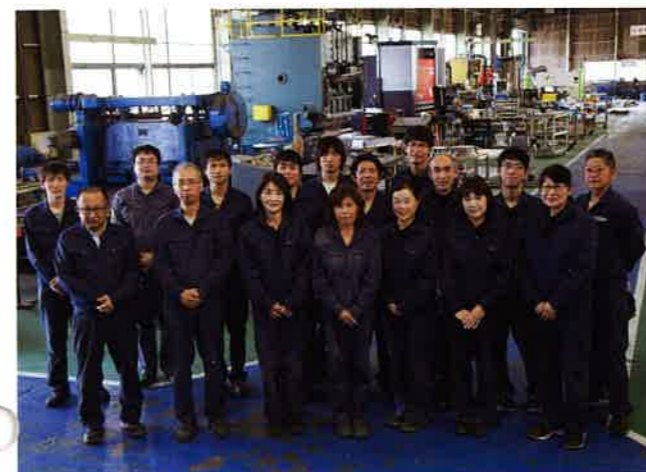
さらに専門家は従業員の目標管理制度の導入を提案しました。倉敷システムデザインが描いたビジョンに到達するために、個人がどのような目標を達成する必要があるかを明文化し、進捗が見える化するためです。会社を取り巻く環境が変化する中で、会社が継続して成長していくためには、従業員一人ひとりが自分の目標と課題を明確にして業務に取り組むことが必要です。

今回、会社のビジョンを明確にしたことで、選択と集中により労働時間を削減していくという方向性の確認ができました。また、目標と課題の明確化により生産性の向上も期待できるようになりました。

倉敷システムデザインは目指す姿に到達するために、新たな一歩を踏み出しました。



## 5S推進によって 繁忙期のリードタイムを短縮する



支援テーマ



業務プロセス改善



労働空間の改善

株式会社 クレスコ

業 種：製造業  
住 所：岡山市東区上道北方  
従業員数：59名（男性36名 女性23名）

### 5Sへの取組を現場に根付かせる

株式会社クレスコは、機械装置や部品を製造する金属加工メーカーです。

クレスコでは以前から、従業員の労働環境を向上させるために、就業規則の改定や、残業時間の削減、有給休暇取得促進に取り組んできました。製造現場へはロボットや新型機械装置等を導入し、生産性向上に取り組んでいます。しかし、2020年の春からプラント関連部品の製造量が増加し、業務量が増える見込みです。工場長は作業者の現場での移動時間を短くするとともに、作業中に工具や資材を探す無駄な時間を無くすことで、生産性を向上させたいと考えていました。

クレスコでは以前から5Sに取り組んでいましたが、時間とともに形骸化してしまい、現場に根付いていません。工場の床は用途ごとに色分けされ、作業場と資材置き場等に分けられていますが、仕掛品が通路に置かれていたり、工具が所定の場所に無いといった状態が散見されました。

工場長は5Sの仕組みを再度構築したいと考え、専門家に支援要望しました。

### 5Sの目的を理解し 自分たちでルールを考える

専門家は、決められたルールを現場に当てはめるのでは

なく、現場の従業員が自分たちで5Sのルールをつくり、実践していくことを提案しました。5Sを定着させるには、目的と必要性を認識して、納得した上で取り組む必要があるからです。専門家のアドバイスを受けて、産業機械グループに所属する5人によるプロジェクトチームが発足しました。

プロジェクトチームのメンバーは専門家のリードで、製造量が増加した際に想定される問題点をカードに書き出し、意見を交わしながらまとめたところ、「資材や仕掛品の置き場所確保」「台車や間接資材、工具の不足を防ぐ」「工場が散らかるのを防ぎ効率を維持する」といった課題がプロジェクトチームのメンバー共通の認識として明らかになりました。

工場内には未利用のスペースが有り、資材や仕掛品を保管するスペースを増やすことにしました。また、間接資材や工具の必要量の集計を行い、不足分は新たに購入するとともに、使用後は所定場所に必ず戻すルールを徹底することにしました。

こうした取組により、作業者の動線に無駄がなくなり、モノを探す時間が削減できました。また、資材や道具が不足することで発生する手待ちも防ぐことができるようになりました。

これらの活動は他の部門でも共有できるように、「5S運動推進計画書」に記載し、会議と朝礼で報告と共有をしました。

クレスコでは今後5Sの推進を、生産性向上策の柱の一つとして継続的に取り組んでいきます。

